

いつ頃からだろうか、透析室の様子が変わってきたのは、気がつけばベッドの1/3を75歳以上の高齢者が占めるようになっていた。活気があり検査の説明もすぐ理解してさっさと歩く高齢患者がいるのも事実ではあるが、検査を受けにくくのも単独では困難な患者もいる。次第に歩く速度が遅くなり、突然自宅で転倒、骨折し入院になったと連絡を受け、透析室に戻ってきたときは認知症に至っていたケースや、自宅での食事が粗末になり倦怠感の出現と体重(DW)減少、歩行困難、そしてフレイルに至るケースもある。いずれにしても、認知症やサルコペニア・フレイルの先頭を切っているのは高齢患者である。血液透析の場合は3回/週の拘束がある。患者には間の時間をうまく利用してセルフケアし、フレイルなどの予防のための時間を作ってほしい。悪化予防は医療スタッフだけではなく、患者や家族の主体性が必須

である。

執筆者の皆様には高齢透析患者が抱える諸問題に焦点を当てて、事例を通して解説していただいた。種々の合併症とその実際の対応は興味深く、それぞれの臨床場面を思い浮かべながら参考にしていただければと思う。

総論では現在の高齢透析患者の現況を概説し、おそらく多くの透析医療従事者が不安を感じている現在の社会保障制度について、中元先生に執筆いただいた。特殊な日本の透析医療の社会保障は他に類を見ないといわれている。この状況の継続が無理なのは自明である。少子高齢化に加え、コロナ禍で社会はとんでもないことになっている。今こその社会に生きる人々の真の共存を考えるべきではないのか。これからの未来を歩む若人のために必要なのは大人の勇気なのかもしれない。(中原 宣子)

2020年(Vol. 36)特集のご案内

- No.① 透析患者の感覚器障害
- No.② 透析液・透析関連排水の諸問題
- No.③ 腎代替療法と Shared Decision Making
- No.④ 世間の荒波にもまれる CKD-MBD 治療
- No.⑤ 近未来の透析医療
- No.⑥ 透析患者の脳血管障害
- No.⑦ 透析患者 PAD の最前線
- No.⑧ バスキュラーアセス
—トラブルを少なくするために
- No.⑨ 血液浄化機器 2020〔増刊号〕

- No.⑩ ・透析患者における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
・透析患者の ADL と QOL
—その評価法と対策
- No.⑪ 高齢透析患者の療養生活支援
—事例を通して見えてくるもの
- No.12 慢性腎臓病・透析患者の酸化ストレス
—最新知見と治療展開
- No.13 高齢透析患者の栄養管理

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.36 No.11

© 2020 年 10 月 10 日発行
定価：(本体 2,600 円+税)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2020, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541